

中小企業におけるITの活用状況調査

●はじめに

「せいしんビジネスクラブ」新春講演会開催時に、当地区中小企業におけるITの活用状況を調査したアンケートを実施した。概要は以下の通り。

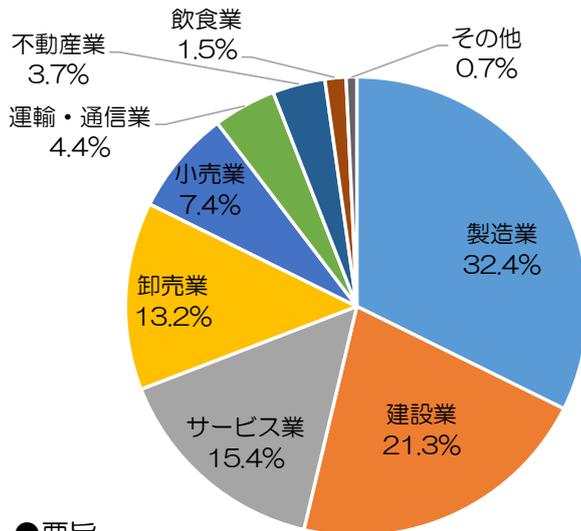
●調査概要

調査時期：令和2年1月28日(火)「せいしんビジネスクラブ新春講演会」開催時

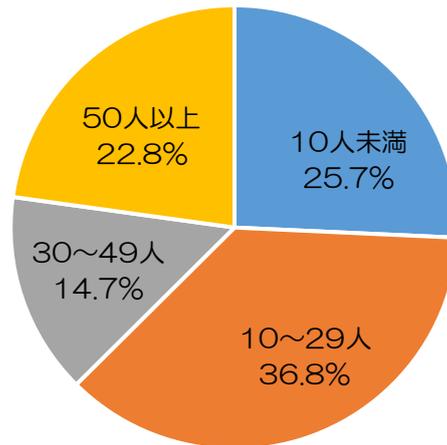
調査対象：静岡信用金庫取引先企業の経営者および後継者で構成する異業種交流会「せいしんビジネスクラブ」会員

調査対象企業数：187社 有効回答企業数：136社 有効回答率：72.7%

《業種内訳 (n=136)》



《従業員規模内訳 (n=136)》



●要旨

～中小企業の8割以上でITの利活用が進んでいる。～

～販売管理、生産管理でのIT活用は一定の割合に止まる。～

～中小企業経営での先端技術（IoT、AI、ロボット等）の活用は限定的。～

◆ ITの活用状況について

・ITの活用状況について尋ねたところ、「ある程度活用している」が62.1%で最多となり、次いで、「積極的に活用している」(20.5%)となるなど、中小企業の8割以上でITの利活用が進んでいる様子が窺えた。

◆ ITを活用している業務分野について

・ITを活用している業務分野について尋ねたところ、「財務・会計」が76.2%で最多となり、次いで、「人事・給与管理」(57.1%)、「社内の情報共有」(52.4%)となった。事務系の業務においては、ITの活用が進んでいる様子が窺えた。

・一方、「販売(HP、SNS、営業支援システム等)」が35.7%、「在庫管理」が28.6%、「購買仕入れ」は19.0%と、販売管理面での活用は進んでいない様子が窺えた。また、「開発・設計」が25.4%、「生産」は22.2%と、生産管理面においても、ITを活用している企業は一定の割合に止まった。

◆ IT活用における課題について

・IT活用における課題について尋ねたところ、「対応できる人材がない」が35.6%で最多となり、次いで、「情報漏洩リスクへの対応」(30.3%)となった。中小企業の1/3以上が、ITを活用できる人材がないと回答しており、従業員のITリテラシーの向上が課題となっている様子が窺えた。

◆ 先端技術（IoT、AI、ロボット等）の活用状況について

・先端技術の活用状況について尋ねたところ、「活用の予定はない」が56.9%で最多となり、「活用済み」は11.2%と、中小企業経営での活用は限定的であることが窺えた。

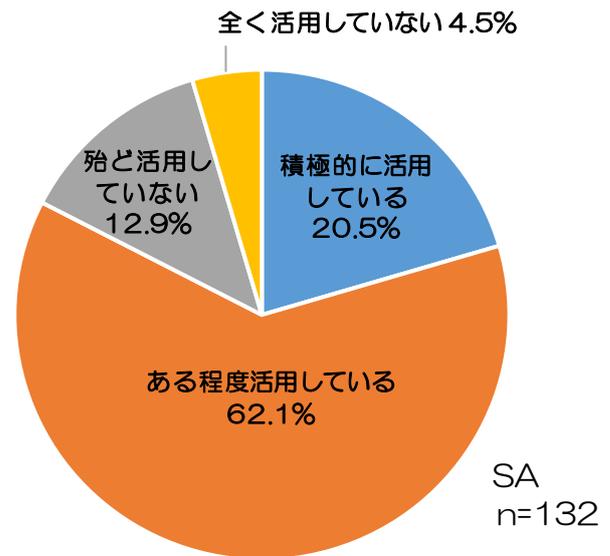
・一方、約4割が活用に前向き（「活用済み」(11.2%)、「年内に活用開始予定」(6.0%)、「検討段階で止まっている」(25.9%)の合計）な姿勢を示した。

1. ITの活用状況について

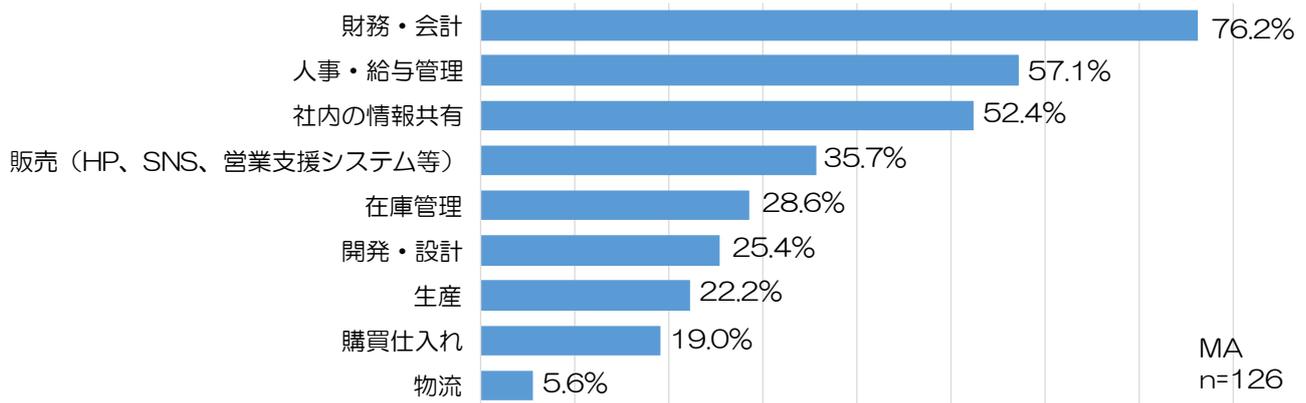
IT（*）の活用状況について尋ねたところ、「ある程度活用している」が62.1%で最多となり、次いで、「積極的に活用している」（20.5%）となるなど、中小企業の8割以上でITの利活用が進んでいる様子が窺えた。

<*ITの範囲>

本調査では、パソコン、インターネット等の日常的な利用から、CAD/CAM、生産・在庫・販売管理、キャッシュレス決済、ネット通販等まで幅広く「ITの活用」とした。



2. ITを活用している業務分野について

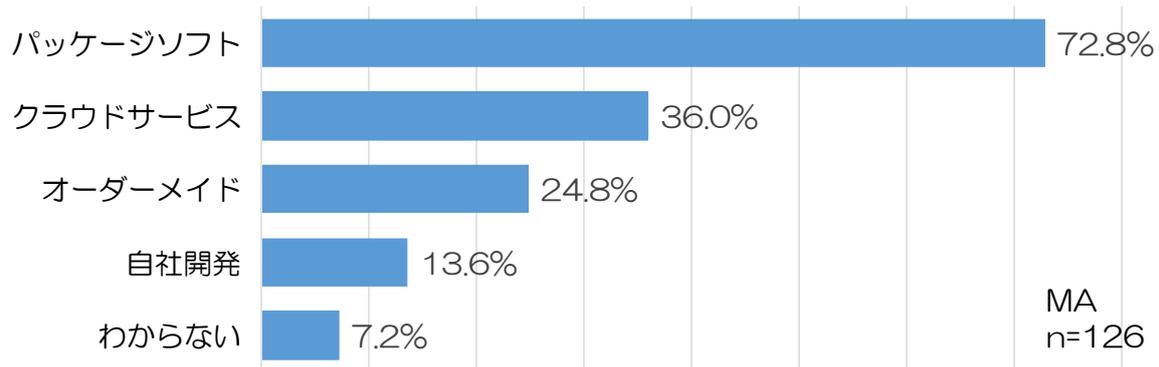


現在、ITを活用している業務分野について尋ねたところ、「財務・会計」が76.2%で最多となり、次いで、「人事・給与管理」（57.1%）、「社内の情報共有」（52.4%）となった。事務系の業務においては、ITの活用が進んでいる様子が窺えた。

一方、「販売（HP、SNS、営業支援システム等）」が35.7%、「在庫管理」が28.6%、「購買仕入れ」は19.0%と、販売管理面での活用は進んでいない様子が窺えた。

また、「開発・設計」が25.4%、「生産」は22.2%と、生産管理面においても、ITを活用している企業は一定の割合に止まった。

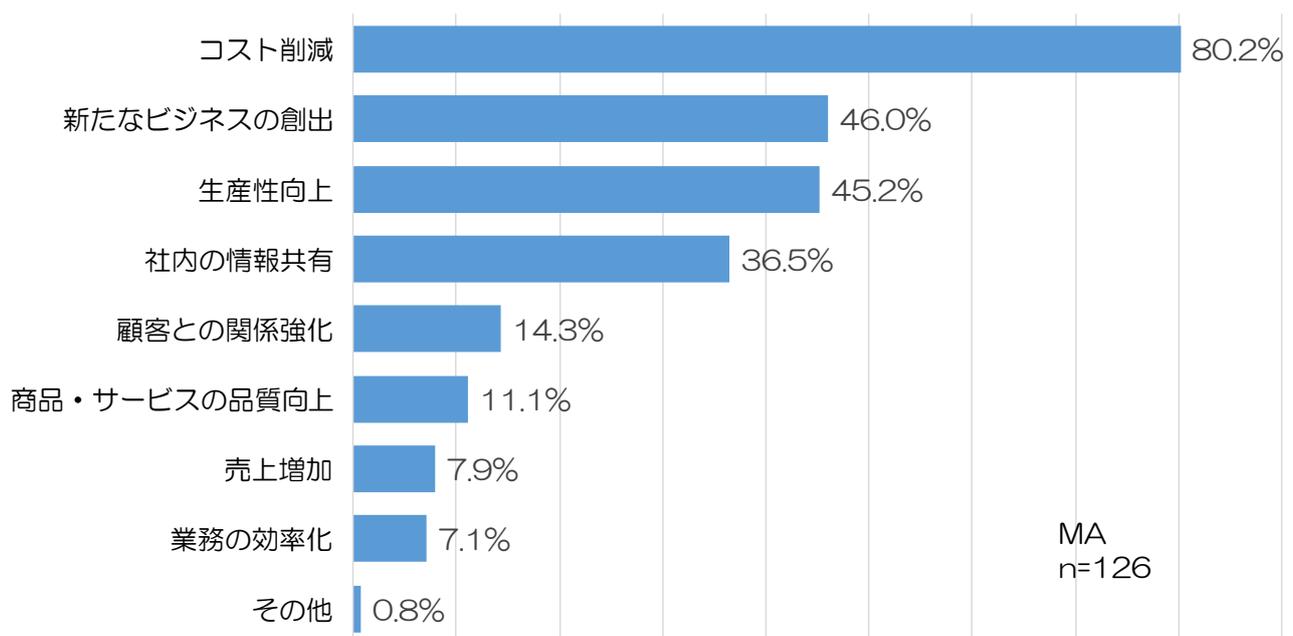
3. 活用しているITの導入方法について



現在活用しているITの導入方法について尋ねたところ、「パッケージソフト」が72.8%と最多となり、次いで、「クラウドサービス」(36.0%)、「オーダーメイド」(24.8%)となった。

パッケージソフトの購入・運用が大半を占めている一方、近年、インターネット環境の整備が進んでいることもあり、クラウドサービスの活用も進んでいる様子が窺えた。

4. IT活用で期待する効果について

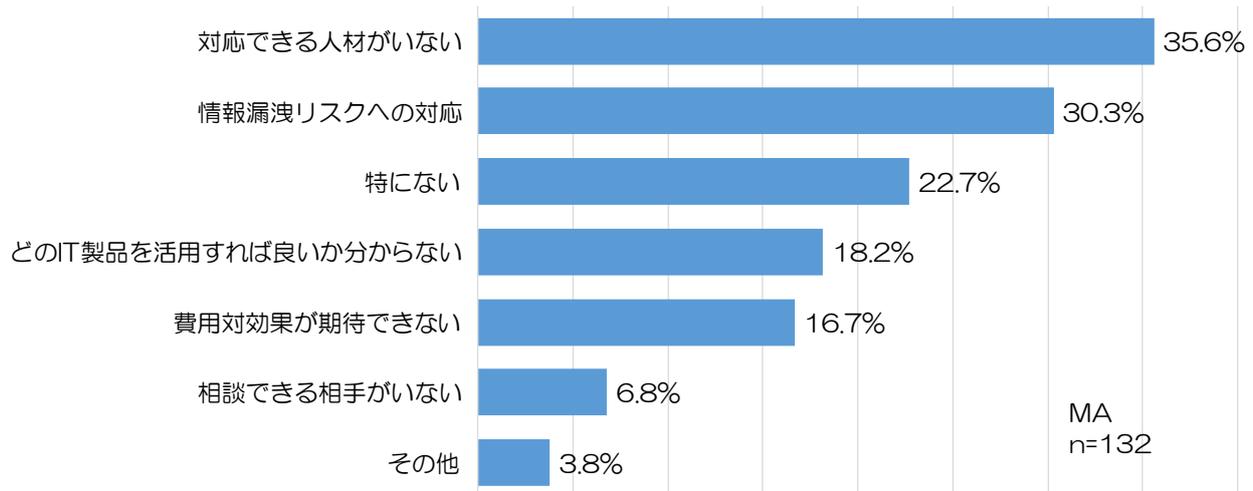


IT活用で期待する効果について尋ねたところ、「コスト削減」が80.2%で最多となり、次いで、「新たなビジネスの創出」(46.0%)、「生産性向上」(45.2%)となった。

コストを抑えることを目的としてITを活用している企業が大半を占めており、企業の競争力を高めていく上で、ITは必須なツールであることが窺える。

また、約半数の企業において、ITを活用した新たなビジネスに取り組む動きも見られ、新たな収益源の確保にもITが積極的に活用されている様子が窺えた。

5. IT活用における課題について

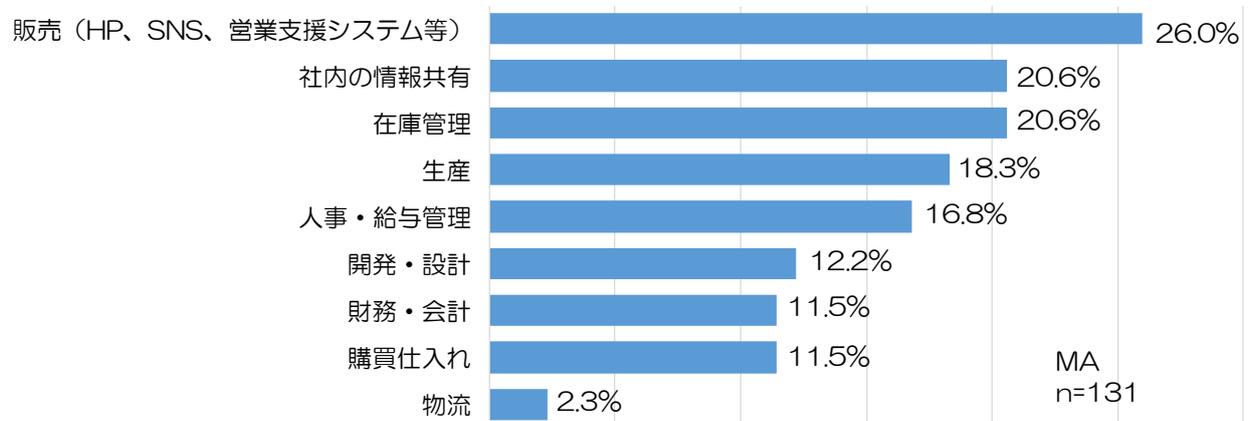


IT活用における課題について尋ねたところ、「対応できる人材がない」が35.6%で最多となり、次いで、「情報漏洩リスクへの対応」(30.3%)となった。

中小企業の1/3以上が、ITを活用できる人材がないと回答しており、従業員のITリテラシーの向上が課題となっている様子が窺えた。

また、約3割が情報漏洩を懸念しており、ITの積極的な活用だけでなく、活用時のリスクを如何に抑えるのかについても、対応に苦慮している様子が窺えた。

6. 今年、IT投資を予定している業務分野について



今年、IT投資を予定している分野について尋ねたところ、「販売(HP、SNS、営業支援システム等)」が26.0%で最多となり、次いで、「社内の情報共有」「在庫管理」が共に20.6%となった。

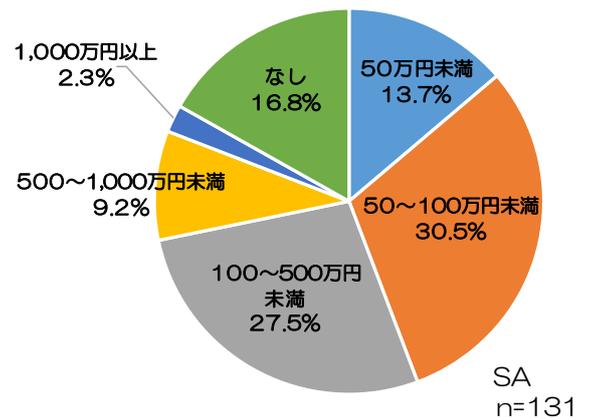
「2. ITを活用している業務分野について」では、「販売(HP、SNS、営業支援システム等)」が35.7%、「在庫管理」は28.6%と営業管理面での活用率は高くなかったが、今年は、同項目におけるIT投資を優先的に実施していく様子が窺えた。

7. IT投資に拠出可能な金額（年間）

IT投資に拠出可能な金額（年間）について尋ねたところ、「50～100万円未満」が30.5%で最多となり、次いで、「100～500万円未満」が27.5%となった。

一方、6割以上が100万円未満と回答（「なし」（16.8%）、「50万円未満」（13.7%）、「50～100万円未満」（30.5%）の合計）しており、資金面での課題が窺えた。

近年は、安価なパッケージソフトや初期投資費用が掛からない月額課金制のクラウドサービスも多数リリースされている。従業員のITスキル向上と同時に、自社の業務に合ったパッケージソフト、クラウドサービスを積極的に活用していくことが、今後のIT投資のポイントと言える。



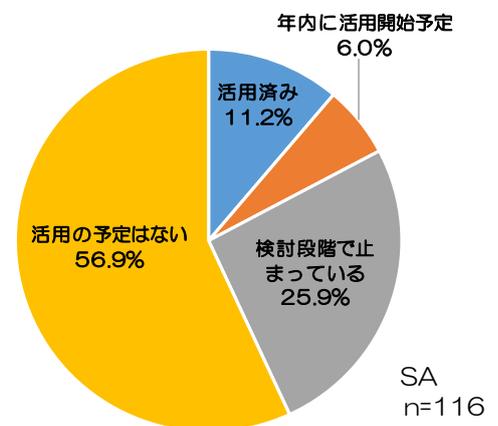
8. 先端技術（IoT、AI、ロボット等）の活用状況について

先端技術の活用状況について尋ねたところ、「活用の予定はない」が56.9%で最多となり、「活用済み」は11.2%と、中小企業経営での活用は限定的であることが窺えた。

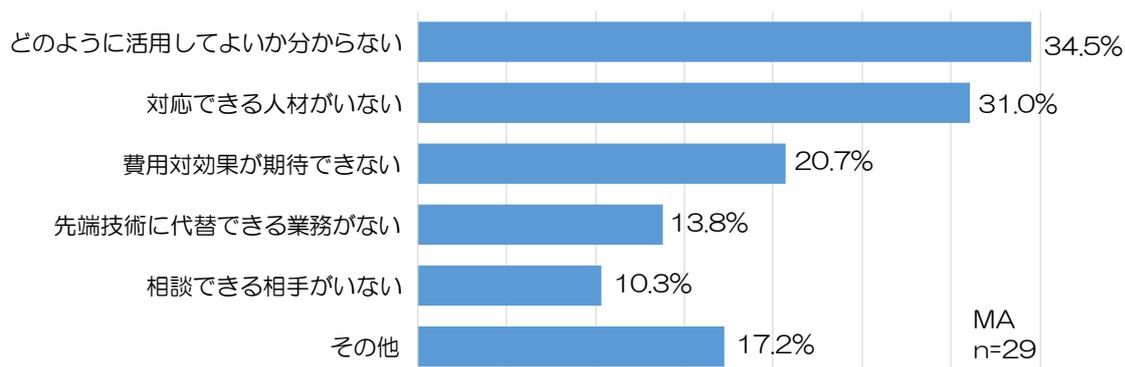
一方、約4割が活用に前向き（「活用済み」（11.2%）、「年内に活用開始予定」（6.0%）、「検討段階で止まっている」（25.9%）の合計）な姿勢を示した。

なお、「活用済み」企業が活用している先端技術は以下の通りであった。

≪ IoT：9社、AI：5社、ロボット：6社、RPA：1社 ≫



9. 「検討段階で止まっている」理由について



「8. 先端技術の活用状況について」で「検討段階で止まっている」と回答した企業にその理由を尋ねたところ、「どのように活用してよいか分からない」が34.5%と最多となり、次いで、「対応できる人材がいない」（31.0%）となった。先端技術の活用イメージが沸いておらず、また、対応できる人材もいないため導入まで進んでいない様子が窺えた。

（静清信用金庫 経営相談部 令和2年3月作成）